



ザンビア田舎の風景



ビクトリアの滝

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第 28 号 (H26.6.22)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (fax0985-54-5711) 文責：理事長 日高良雄



はじめに 宮崎は梅雨に入り気温が上がらず、肌寒い状況です。各地の皆様にはいかがお過ごしですか。気候の変化、気温の変化が以前より大きい感じですね。体調がうまく管理できず、急な気温の上昇に熱中症等にならないよう充分にご注意ください。

会の経過報告 先日経過報告をいたしましたので今回は会として特にご報告することはありませんが、山元香代子先生から現地の活動報告（コミュニティヘルスワーカーの後期研修状況、ルサカ地区での井戸掘削の状況、巡回診療等）が届きましたのでお届けします。

なお、当法人のホームページ (<http://ormz.or.jp/>) や、市民活動を寄付で応援する総合サイト「アタラコ」に登録しました当法人のアドレス (<http://ataraco.com/info/archives/1684>) をご覧いただき、お友達にもお知らせ頂けるとありがたいです。今後とも賛助会員増などにご協力ください。

賛助会費の納入について 26 事業年度の賛助会費をまだ納入されていない方は、どうぞ賛助会費(一口 5000 円、一口以上)の送金と連絡をお願いします。連絡先は法人代表 info@ormz.or.jp または日高 (hidaka1956@gmail.com) へ。折り返し確認のお返事をさせていただきます。

どうぞよろしくをお願いします。

★郵ちょ銀行からの振替

口座記号番号 01720-9-126351

加入者名 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金

郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名： NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称 (全角)：トクヒ) ザンビアノヘンチイリョウオシエンズルカイ (注：ヲ→オ)

現地活動報告 (山元香代子先生から)

みなさまお元気でしょうか。日本の今年の梅雨は雨が多いのでしょうか。

ルサカは、4 月中旬過ぎに雨が降って以来、全く雨はなく、毎日いいお天気です。昼間は外に出ると結構暑いのですが、家の中はひんやりとして、朝晩は肌寒いです。ここ 1 か月とても忙しく、活動をご報告する

ことができず、申し訳ありませんでした。

◎コミュニティヘルスワーカーの後期研修

5月12日から24日まで12日間カナカントパヘルスセンターで、コミュニティヘルスワーカーの後期研修が実施されました。残念ながら、1名の女性が参加できませんでしたが、11名が無事30日間の研修を修了しました。ニャンカンガ地区の2名には、携帯電話が通じず、ようやく連絡が取れた月曜日の夜中過ぎに5時間歩いてカナカントパに到着し、その朝から研修に参加しました。また、不参加となった女性の代わりにカナカントパから若い青年が参加しました。ルアノ地区で4名、ムワンタヤ地区で3名、ニャンカンガ地区で2名、カナカントパ地区で2名（うち女性4名）のヘルスワーカーが誕生し、修了証明書が授与されました。後期の12日間は小児保健に関する講義と、実地研修が中心でした。前回の講師のムウインガさん、シバンダさん以外に巡回診療でいつも手伝ってくれているムレタさんが加わりました。コミュニティヘルスワーカーは、今後巡回診療を手伝ってくれると共に、診療後の患者のフォローをしてくれます。

また、ルアノ地区、ムワンタヤ地区では、住民が自分たちで建てた建物をこれからヘルスポストとしていけるように、週のうち2-3日はだれかコミュニティヘルスワーカーが常駐し、彼らのできる範囲での診療、投薬をしていける体制を作っていきたいと考えています。そのためには、次回の巡回診療までの十分な薬品、マラリア検査キットなどが必要となります。

◎巡回診療の状況

月3回の巡回診療は継続しています。6月4日のムワンタヤ地区の巡回診療では、朝、運転手が定刻を過ぎても現れずにこまってしまったが、たまたま巡回診療見学のため、日本から見えていた滋賀大学の医学生が、以前南アフリカで生活されたことがあり、国際免許証も持っておられ、運転して下さることになりました。医学生には、マラリア検査などもしていただき、いろいろとお手伝いいただき、とても助かりました。ありがとうございました。心からお礼申し上げます。（出勤しなかった運転手は、翌朝連絡があり、暴漢に襲われ怪我をして、病院に入院していたようでした。けがの程度は軽く、翌日には退院できました。）

ムワンタヤ地区には、同じ日に、住民が建設した建物を完成させるために、グリルドア、窓枠、セメントなどを搬入しました。

ルアノ地区、ムワンタヤ地区でも巡回診療でのマラリアの患者が少しずつ減ってきて、喜んでいましたが、6月11日のルアノ地区の診療では145名中105名のマラリア検査陽性患者が出て、今年最高の72.4%の陽性率となりました。ただありがたいことに、今年に入り、ルアノ地区ではマラリアにより亡くなっている方はいません。そのために両地区とも抗マラリア薬、マラリア検査薬が、昨年と比べ約2倍量が必要となっています。それが提供できるのもみなさまのご支援のおかげと、心からありがたく感じながら、仕事をしています。



5月30日には、ニャンカンガ地区での巡回診療を開始するため、地区の村の長との話し合いが行われました。人口約4000人の地区で、一番近くのヘルスポストまで18km、チペンビヘルスセンターまで約62kmとのことでした。道は平坦でルアノのような悪路ではありませんが、雨季の通行はむずかしそうでした。6月の第3週水曜日から月1回の診療を開始することで、住民の協力が得られることとなりました。これで、6月からは毎週水曜日は診療にでることとなります。

◎ルアノ地区での井戸掘削

今年はルアノ地区に井戸を掘る計画がありました。以前、日本のODA (Official Development Assistance 政府開発援助)でザンビアに1000個以上の井戸を掘ってこられた日本人の方からアドバイスをいただき、中国の井戸掘りの会社を紹介していただきました。他の2社は現地を見ることもなく、見積もりを出すのに比べ、まず現地を見てからのことで、5月22日に担当者と共にルアノに向かいました。ルアノ地区の入り口の小川の急こう配で、まずダメだと言われました。運転手のスルさんがもう少し傾斜の緩い別のルートがあると説明し、先に向かいました。ルアノに着くまで何度も何度も立ち止まり、これは大変だと言われましたが、何とかルアノ地区の巡回診療を行っている中心部にたどり着きました。そこまで、いつ引き返されるか心配で祈るような思いでした。ルアノに着くと、多くの高い木々を見て、ここなら水が出ると太鼓判を押してもらえました。この会社は、1基7500ドルと他社と比べると2倍くらい高いのですが、水が出るまで掘ることと水質検査を約束して下さいました。他の会社では、水が出なかった場合もお金を支払はなくてはいけません。日本で緊急の臨時総会での承認をいただき、この会社に2基掘っていただくことになりました。村の男の人たちは、さっそく道を広げるための草刈、木の枝切りなどを開始しました。

◎NHKBS 地球アゴラへの出演依頼

NHKBS 地球アゴラの出演依頼があり、カメラマンが6月10日にルサカにみえることになりました。また井戸掘りも12日から始まることになり、とても一人では対応できないと考え、ORMZ会員の櫻井睦子さんに6月6日から応援に来ていただいています。6月11日はルアノ地区での巡回診療、12日は井戸掘りのためのトラックの先導、13日はドラマグループによる、きれいな水の使用、井戸の管理などを含む衛生問題とマラリアの啓発活動、15日は2基目の井戸掘りを見るために、再度ルアノに向かいました。これまで週2回のルアノ行はありましたが、1週間に4回も往復したのははじめてでした。うち3回はカメラマンと一緒にでしたが、カメラマンが帰られた後は熱を出して寝込んでしまいました。ルアノ地区の人々ははじめての井戸掘りに大喜びです。その様子がテレビ (NHKBS 地球アゴラ) で再現されることを期待しています。

私は6月29日のスカイプを使った取材が終わりましたら、日本に戻り、3か月間昭南病院で勤務する予定です。こうして活動でき、ルアノをはじめ地区の人々の笑顔を見ることができるのは、みなさまのご支援のおかげです。ありがとうございます。

これから梅雨が明け、暑い日々が始まりますが、どうぞお元気でお過ごし下さい。これからもご支援よろしくお願い申し上げます。

ザンビア情報はお休みします

今後ともご支援のほどよろしく申し上げます。